



小樽市立幸小学校

令和8年度 学校経営方針

1 学校教育目標

- 強い心とからだをもった たくましい子ども
 - やさしい心をもった 明るい子ども
 - かしこくて 先を見つめられる子ども
 - 自分から 進んでやれる子ども
- (昭和47年制定)

2 学校経営基本理念

- 学校教育目標及び重点目標を全職員で共有し、全ての教育活動を通して、一貫性を保った指導・支援を組織的に進めることで、学校教育目標の具現化を図る。
- 子どもの確かな学びを目指し、「学校」「家庭」「地域」が協働し、共に育つ学校の創造を目指す。
- 親和的・共感的コミュニケーションによって醸成された尊敬と信頼を基にした協働体制による教職員集団による、働きがいのある学校を創る。

3 学校経営方針

<学校経営3つの重点>

1 子どもが主役の学校づくり

子どもが生涯にわたり生き生きと生きるため、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の基礎を育成することが、小学校の使命である。全ての教育活動を通して、子どもが確かな学力と予測困難な未来を生き抜くための力を身に付けていくことを目的として、「子どもを中心に据えた学校づくり」を進める。

- 地域や児童の実態を的確に捉え、「令和の日本型学校教育」の実現に向け、指導内容、指導体制、指導方法、学習活動の工夫・改善に全職員で取り組む。
- 児童及び職員一人ひとりが、自己存在感・自己肯定感を実感し、円満な人間関係を築くことのできる教育活動を実践する。

2 家庭・地域と協力連携する学校づくり

学校は地域の中に存在し、地域の共有財産である。学校がその使命を成し遂げるためには、「学校」「家庭」「地域」がその役割をしっかりと果たすことが重要である。そのために「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、「家庭・地域と協力する学校づくり」を進める。

- 各種便りやHP、アンケート等による積極的な情報収集、情報提供、情報共有により、学校・家庭・地域の願いを共有していく。
- 地域資源の積極的活用や学校運営協議会をはじめとした関係諸機関との連携など、地域で学び、地域で過ごし、地域で成長できるよう、地域と共に子どもを育てる。

3 教職員が切磋琢磨し高め合う学校づくり

子どもの教育に携わる教職員が、自ら研修し、指導力を向上させることが、子どもへの責任であり、責務である。お互いに切磋琢磨することで力量の向上を図りながら、それぞれの職務において研鑽を重ね、「共に学校を創造する意識に基づいた学校づくり」を進める。

○全職員の協働意識を醸成し、校内組織の機能化を図る。あわせて働き方改革を推進することで、職員が専門性を発揮し、使命感をもって教育活動に邁進できる環境を整える。

○公開研究会の開催など校内研究の活性化とともに、対話による受講奨励を積極的に行うなど、職員の資質・能力の向上に努める。

<令和8年度の重点経営方針>

誰一人取り残さない「温かい学校」

すべての子どもたちの可能性を引き出す教育が求められる今、教室には、発達障害や特異な才能、家庭環境の差による学力格差など、多様な背景をもつ子どもたちが存在する。これらの特性が複合しているケースも少なくない。また、不登校やその傾向にある児童生徒は年々増加しており、一斉授業の中では「浮きこぼれ」や「落ちこぼれ」を生んでしまい、真に支援を必要とする子のサインを見逃してしまう現状も否定できない。

こうした日本の教育課題は、本校においても同様である。個別の配慮を要する子や学力差の拡大に対し、本校では令和7年度より「誰一人取り残さない『温かい学校』」を重点経営方針に掲げ、全教職員で子どもに寄り添い、共感的な関わりを大切にしていきたい。また、ユニバーサルデザインの視点による教室環境の整備を行うとともに、授業では子ども一人一人を見取り、適切な支援を行うよう努めてきた。

今年度は、これまでの取組をさらに継続・深化させ、一人一人の資質・能力を育む教育を力強く推進していく。生徒指導の4つの視点を重視し、心理的安全性の高い学校風土の醸成に力を尽くすことにより、子どもたちがいっそう自己肯定感を高め、前向きに学校生活を送れる場を目指す。

また、子どもの健やかな成長には、家庭との密接な連携、そして「幸」の地域が持つ豊かな教育力が不可欠である。家庭・地域・学校が手を取り合い、愛情をもって子どもに関わるすべての人の力で、真に「温かい学校」を共に創り上げていく。

《生徒指導の4つの視点》 ～生徒指導提要より～

①自己存在感の感受

「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感、ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感や、他者のために役立った、認められたという自己有用感を育む。

②共感的人間関係の育成

失敗を恐れない、間違いやできないことを笑わない、むしろ、なぜそう思ったのか、どうすればできるようになるのかを皆で考える支持的で創造的な学級づくり

③自己決定の場の提供

自己指導能力を獲得するには、授業場面で自らの意見を述べる、自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験が重要。

④安全・安心な風土の醸成

互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を過ごせる風土

4 目指す子ども像

強い心からだを持った

たくましい子ども

少々の困難にもへこたれず、前向きな態度で乗り越えていける強い心を持ち、健康に気をつけ、楽しみながら体を動かすことで心身ともに力強さを備えた子どもの育成を目指す。

やさしい心を持った

明るい子ども

礼儀正しく、寛容かつ広く穏やかな心で自分も他人も大切にでき、爽やかに明るい気持ちで過ごすことのできる子どもの育成を目指す。

かしこくて

先を見つめられる子ども

基礎・基本となる確かな学力を身につけるとともに、それらを活用しながら、目的をもって、自分の思い描く未来の実現のために主体的に努力できる子どもの育成を目指す。

自分から

進んでやれる子ども

自分の意見や考えを持ち、自分がしなければならぬことを自覚して、自律的に進んで取り組もうとする前向きな気持ちを持った子どもの育成を目指す。

5 目指す教師像

子どもに寄り添い、健やかな成長を目指す、人間性豊かな教職員

教育公務員としての職務を自覚し、他の教職員と協力・協働し、自らの資質・能力の向上を目指す教職員

常に真摯な対応を心掛け、子ども・保護者・地域・同僚から信頼される教職員

6 重点教育目標

自ら考え判断し、主体的に行動できる子どもの育成

令和8年1月に全教職員にアンケートを行い、幸小の児童の実態について、よさや課題を明らかにした。主なものは以下の通りである。

○よ さ

- ・ 明るい気持ちで過ごせる
- ・ 進んで運動しようとする
- ・ 自分からあいさつできる
- ・ 他を思いやれる

○課 題

- ・ 自分の考えを伝えることが苦手
- ・ 主体的に取り組むことができない
- ・ きまりを守る意識が弱い
- ・ 忍耐力が乏しい

本校の児童は、人懐こく明るい挨拶ができ、元気に体を動かして遊ぶことを好む点が大きな長所である。半面、教員の指示には素直に従うものの、基本的には受け身であり、自ら判断して行動する場面が少ない傾向にある。また、自分の思いや考えを相手に伝えることにも課題が見られる。

そこで、今年度の重点目標は、「主体的に考え判断し、行動できる子どもの育成」とする。自ら行動する力を一層向上させることで、学校教育目標の具現化を図りたい。

その達成には、教員が児童の主体性を引き出す機会を意図的に創出することが不可欠である。学級活動や児童会活動、学校行事をはじめ、教育活動全般において「自らの行動が成功や貢献につながる経験」を積み重ねていく。その際、教員は過度な手助けを控え、児童の変容を見守る姿勢を重視する。

未来を担う子どもたちが、将来に夢や希望を持ち、その実現に向けて主体的に歩みを進める力を育成したい。

7 学校経営における重点的な取組

教育DXの推進（すべての教育活動・校務分掌の中で）

1 学びづくり ～子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善～

- (1) 確かな学力の育成
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善
 - 一人一台端末を効果的に利活用した授業づくり
 - 基礎・基本の定着
- (2) 統一性のある学習指導
 - 「学習の約束」をもとにした学習規律の定着
 - 「おたる授業づくりの5つのSTEP!!」に即した授業展開

2 心づくり ～一人一人に目を向けた生徒指導の充実～

- (1) 自他を大切にできる心の育成
 - 生徒指導の4つの視点を生かした指導
 - 特別支援教育の視点を大切にしたい学級経営
- (2) 安全・安心な心の教育
 - 不登校・いじめの未然防止、早期対応
 - 「自分の命は自分で守る」意識の高揚、学校生活のきまりの遵守

3 体づくり ～健康な生活を送るための基礎的実践力の育成～

- (1) 年間を通じた体力向上
 - 体力テストの異学年実施、結果の活用
 - 体力向上に向けた環境づくり、市内スポーツ大会への参加奨励
- (2) 望ましい生活習慣の確立に向けた取組
 - タイムマネジメント力の向上

4 体制づくり ～「チーム力」を生かした持続可能な学校運営～

- (1) 組織的な業務運営
 - 業務の平準化、協働性ある職場
- (2) 教育の質の向上を図る「働き方改革」の推進
 - 校務支援システムやICTを活用した教育DXの推進
- (3) 学びをつなぐ
 - 小中一貫教育の推進、幼保小連携
- (4) 地域とともにある学校
 - 学校運営協議会や町会、PTAとの連携、学校ボランティアの協力

8 実践項目（小樽市教育推進計画に沿って）

目標 1 未来を創る力の育成

急激な社会の変化の中にあっても、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質能力を身に付けることができる学校教育の充実に取り組む。

項 目	主な取組と数値目標
1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一台端末を効果的に利活用した授業改善。 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善。 ○全学級で統一性のある学習規律の徹底。 ○「おたる授業作り5つのステップ!!」に基づく学習展開の徹底。 ○個に応じた指導の充実と基礎学力の定着。 ○学力調査等による学習状況の分析と、具体的な方策の提案・検証。 ◆児童アンケートにおいて、「学年×10分+10分」の家庭学習に取り組む児童を70%以上とする。
2 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の視点を生かし、全体への配慮と個別の支援の両面からの指導の充実。（ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくり） ○個別の指導計画に基づく目標を明確にした指導の充実と評価。 ◆定期的（月1回程度）に校内特別支援委員会を開催し、通常学級の児童に対する特別支援体制及び効果的な支援員配置を検討する。
3 国際理解教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「国際理解教育全体計画」に基づいた、各教科等における指導のねらいや内容の関連を図った国際理解教育の充実。 ○OEC・WESへの積極的な参加奨励。 ○外部人材を活用した外国語学習の授業の充実に取り組む。 ◆児童アンケートで「外国語を使って積極的に話せた」と肯定的に回答する児童の割合を90%以上（R7：84%）にする。
4 理数教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○学習支援加配教員、理科専科教員と連携した授業改善の推進。 ○他校実践の効果的な還流。 ◆児童アンケートで「算数が好き」「算数が分かる」という設問の肯定的評価85%以上（R7：「好き」73%、「分かる」84%）にする。
5 情報教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○GIGAスクール構想に伴う一人一台端末の効果的な利活用。 ○「プログラミング教育全体計画」のもと、全校で年間を通じたプログラミング的思考の育成。 ○発達段階に応じた、情報活用能力や情報モラルに関する指導の推進。 ○保護者と連携した、スマホやパソコンの使い方のルールやマナーの指導、「情報モラル教室」の開催、「おたるスマート7」の推進。 ◆児童アンケートで「毎日1時間以上スマホ・インターネットをする」児童を50%以下（R7：90%）にする。
6 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「キャリア教育全体計画」に基づいた、子どもたちの未来につながる勤労観や職業観の育成を目指したキャリア教育の推進。 ○キャリアパスポートの取組を通じた、自己の成長について振り返らせる場の設定。 ◆キャリア教育を積極的に行い、児童アンケートで「将来に夢や希望をもっている」肯定的回答を95%以上（R7：93%）とする。

目標2 豊かな心の育成

子どもたちの基本的な倫理観や規範意識を身に付けさせるとともに、ふるさと小樽への愛着や思いやりの心など、豊かな心の育成に取り組む。

項 目	主な取組と数値目標
7 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の心に響き「考え議論する道徳」となる授業改善の推進。 ○道徳教育推進教師を中心とした、道徳科の研修の充実。 ◆児童アンケートで「自分にはよいところがある」への肯定的回答を80%以上（R7：74%）とする。
8 ふるさと教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な学習の時間全体計画」に基づいた、ふるさと教育の充実。 ○地域の教育資源を積極的に取り入れた指導計画の作成。 ○地域、保護者と連携した地域行事への積極的な参加の奨励。 ◆関係各機関との連携による「ふるさと教育」を全学年で実施する。
9 読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書や読み聞かせ等、読書の興味・関心を持たせる取組を工夫・改善することによる、読書習慣の確立。 ○図書館司書、小樽市立図書館との連携。 ◆児童アンケートで「毎日読書をしている」への回答を95%以上（R7：91%）にする。
10 体験活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を図りながら、オンライン等の活用も含めた体験活動の計画的な実施。 ○小樽市の社会教育施設や民間団体の機能を活用した体験活動の充実。 ◆すべての学年で、ボランティア活動等の体験活動、地域の素材を活用した自然体験活動を実施する。
11 コミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に協働して課題解決に取り組む力を育む授業改善。 ○相手意識をもたせた言語に関わる継続的な指導。 ◆児童アンケートで「相手の気持ちが温かくなるような優しい言葉をつかっている」への肯定的回答を85%以上（R7：84%）にする。
12 いじめの防止や不登校児童の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○発達支持的な生徒指導の充実と、全領域で生徒指導の4つの視点を生かした指導。 ○未然防止、早期対応を図るための生徒指導委員会を核とした組織体制の確立と、日常的な情報交流。 ○「いじめ防止キャンペーン」の充実と「人権教室」の実施。 ○個人懇談や教育相談の充実及び関係機関との連携。 ◆児童アンケートで「学校に来るのが楽しい」への肯定的に回答90%以上（R7：87%）にする。

目標3 健やかな体の育成

健康を保持増進し、運動の楽しさや喜びを感じながら体力・運動能力の向上を図るとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるなど、健康教育の充実に取り組む。

項目	主な取組と数値目標
13 体力・運動能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○「新体力テスト」を全学年で実施・分析し、体力・運動能力の状況等を踏まえた体育科授業の改善及び体育的行事の充実。 ○全学年で体育の授業の冒頭部に取り入れる準備運動「幸サーキット」の継続。 ○休み時間におけるグラウンドや体育館遊びの奨励。 ◆「握力」と「ソフトボール投げ」で全国平均と同程度となるようにする。(R7:「握力」到達率の平均85%、「ソフトボール投げ」92%)
14 食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○給食指導等を通じた、食に関する正しい知識と望ましい食習慣の育成。 ◆栄養教諭を外部講師として招いての食育教育を全学年で実施する。
15 健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活リズムチェックシート」の活用による保護者と連携した「早寝、早起き、朝ごはん」等の基本的な生活習慣の確立と、タイムマネジメント力の育成。 ◆児童アンケートで「早寝・早起き・朝ごはんができています」と肯定的に回答する児童を80%以上(R7:74%)にする。

目標4 家庭・地域との連携・協働の推進

基本的な生活習慣や豊かな情操の出発点である家庭教育を支援するとともに、学校と地域が連携・協働した組織的・継続的な環境づくりに取り組む。

項目	主な取組と数値目標
16 家庭教育支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で統一性のある宿題・家庭学習の推進。 ○家庭学習の手引きを活用し家庭との連携を強め、音読を含めた自主的な学習習慣の定着。 ◆保護者アンケートで「音読や家庭学習の確認をしている」の肯定的回答を70%以上(R7:66%)にする。
17 学校と地域の連携・協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の計画的な実施と分析による、学校経営・教育活動の改善・充実。 ○学校運営協議会を活用した、地域との連携・協働。 ○町内会の活動への積極的な参加奨励や、地域と連携した教育活動の充実。 ◆保護者、地域と連携・協働した地域行事への参加を4回以上行う。

目標5 学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現

新たな教育課題に対応するため、教員の資質・能力の向上、学校の施設設備の充実、学校段階間の連携などの改善を進めるとともに、教職員の働き方改革の推進や学校安全教育の充実に取り組む。

項 目	主な取組と数値目標
18 学校段階間の連携・接 続の推進	<p>○長橋中学校区での9年間の教育活動の連続性を図る授業を通じた連携や、指導に関わる共通実践、教育課程の連携等具体的な小中一貫教育の推進。</p> <p>○近隣小中学校の公開研究会等への計画的な参加。</p> <p>○スタートカリキュラムをもとにした幼保との連携</p> <p>◆長橋中学校区で教育課程部会、学力・体力向上部会、安心安全部会を学期1回以上行い、具体的な連携の推進を図る。</p>
19 教育環境の整備	<p>○全校一斉の昼掃除を徹底し、清潔な校内環境の保持と、勤労を尊ぶ意識の向上を図る。</p> <p>○校内外における学校施設設備の保全と整備。</p> <p>○教室環境のユニバーサルデザイン化等、落ち着いた環境づくり。</p> <p>○学習教材・図書・教具・備品等の教育条件の整備・充実。</p> <p>○学習意欲の啓発と情操教育を育てる教室・廊下等の掲示・展示の工夫。</p> <p>◆ICT の利活用に係る研修を年5回以上実施し、教員自己評価において chromebook を毎日授業で活用する割合を 100% (R7:100%) にする。</p>
20 教職員の資質・能力の 向上	<p>○授業交流を軸とした、校内研修の充実。</p> <p>○公開研究会の開催等、外部からの指導を取り入れた校内研修の充実。</p> <p>○各種研究会・研修会への積極的な参加促進と、還流による研修の充実。</p> <p>○コンプライアンスに関わる研修による、教育公務員としての高い倫理観の醸成。</p> <p>◆教職員全員が後志教育局及び市教委主催の研修会、他校の公開研究会等に年間4回以上参加する。</p>
21 学校運営の改善	<p>○教育活動の具体的な取組を保護者会やPTAの諸会議等を通じて情報発信することによる、保護者や地域と一体となった教育活動の充実。</p> <p>○組織的な分掌組織による「働き方改革」の視点を踏まえた業務の推進。</p> <p>○教育DXを推進し、効率化を図るとともに、時間意識を高めた業務の推進。</p> <p>◆ノー残業日を月に1回設定し、その日は定時退勤する職員を100%にする。</p>
22 学校安全教育の充実	<p>○「学校安全計画」・「危機管理マニュアル」に基づいた、安全・防災教育の推進。</p> <p>○地域、保護者との連携を図った指導体制の確立。</p> <p>◆有事を想定した、より実践的な内容の避難訓練を年3回実施し、地域との連携による校外での交通安全見守り活動を年間に毎日行う。</p>

目標 6 生涯各期における学習機会の充実

全ての市民の多様なニーズに対応した学習機会を提供することにより、地域コミュニティの維持・活性化を図り、地域全体の教育力の向上に取り組む。また、社会教育施設に利活用を促進し、各種事業の積極的な実施や情報発信に取り組む。

23 「学び」と「活動」の循環の推進

24 生涯各期における学習機会の充実

25 図書館の利活用の促進

26 総合博物館の利活用の促進

27 文学館・美術館の利活用の促進

○小樽の自然・歴史に関わる専門的な知識・資料を活用した教育活動の充実。

◆オンラインなどの活用も含め全学年で年1回以上様々な社会教育施設（図書館・博物館など）を活用する学習を行う。

目標 7 文化芸術の振興と文化遺産の保存活用

本市の文化芸術活動の場の提供などの支援を行い、文化芸術活動の一層の活性化に取り組む。また、先人が築いた豊かな郷土の文化遺産を保存・活用し、魅力あるまちづくりを推進する。

28 文化芸術活動への支援と市民参加

29 文化財などの文化遺産の保存と活用

○文化芸術活動や文化遺産の保存継承のための学びの機会への参加奨励。

目標 8 生涯スポーツ・レクリエーションの振興

市民生活のスポーツへの参画を推進するとともに、体育施設の整備と利用促進に努め、市民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しむことのできる環境づくりに取り組む。

30 生涯スポーツ・レクリエーション活動の普及と市民体力の向上

31 スポーツ団体との連携と競技力の向上

32 体育施設の利用促進

○定期的にスポーツができる場としての学校施設の開放。

○おたる運河ロードレース大会や各種スポーツ教室等、関係機関・団体が主催するスポーツイベントへの参加奨励。